

学校適正配置について

学校適正配置とは、より良い教育環境の整備を目指し、学校規模と学校配置を一体のものとして検討し、小規模校や大規模校の学校規模の適正化を図り、教育上・学校運営上の諸問題を解消するための取り組みです。

令和7年度から4地区で学校適正配置地元代表協議会が設立され、複式学級の解消を最優先に、地域の子どもたちにとって望ましい教育環境の話し合いが進められています。その中で紹介された内容等をまとめてみました。

適正配置によるメリット

☆教育上の視点

- ・一定の規模があることで、教員数を確保でき、各教科の専門性を持つ教員を配置しやすくなります。
- ・複数の児童生徒が関わるグループワークやディスカッションなど、協働的な学びの機会を多く設けることができます。
- ・児童生徒数が多いほど、クラブ活動、委員会活動、行事などで多様な役割や選択肢を提供できます。
- ・児童生徒、教員、保護者を含めて互いの結びつきが深くなり、家庭的な人間関係を形成しやすくなります。

☆学校運営上の視点

- ・教員配置の面では、過小規模を解消し、ある程度の規模があれば、学級数が確保でき、教員の配置をより柔軟かつ効率的に行えます。これにより、きめ細かな指導体制を維持しやすくなります。
- ・適正配置によって、限られた教育資源を効率的に活用し、教育内容の充実に回すことができます。



基本方針について詳しくは



第2次今治市学校適正配置基本方針(令和7年9月策定)より抜粋

教育委員会に聞いてみました

Q: なぜ複式学級の解消は必要ですか？

A: 複式学級は、一つの教室で学年ごとに授業するため、授業時間が通常の半分になります。子どもたちにより良い教育を行うためには、複式学級の解消が必要であると考えます。複式学級を解消することで、教員の業務負担が軽減され、本来の専門性の高い業務に集中できる環境が整います。

Q: 統合により、通学距離が遠くなったら、スクールバスを利用できますか？

A: 小学校のスクールバスは、通常4 km以上からですが、統合により、通学距離が伸びた場合は、3 kmからの支援を検討しています。

Q: 閉校した場合、避難所ではなくなるのですか？

A: 基本的には、引き続き避難所として使用できます。

Q: 協議会では、この他にどんな内容の話が出ているのですか？

A: 統合場所についてなど様々な内容があります。詳細については、ホームページをご覧ください。

協議会について詳しくは



今後、子どもたちにとって、より良い統合の形を、地域全体で模索していきたいものです。

令和7年度 今治市PTA連合会 会長 長尾正人 挨拶

日頃より今治市PTA連合会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、各単位PTAでの様々な活動に対しまして敬意を表します。

今治市PTA連合会の活動は、会長会、球技大会、情報交換会、研修大会等の事業運営をはじめ、PTAカレンダーの作成、広報紙・SNS等による情報発信、青パト等による見まもりと多岐にわたって、各単位PTAから出向していただいている皆さんで4つの専門部に分かれて担当していただいています。

会員間の親睦もありますが、各学校・会員同士の情報交換、情報共有を行い、私たち大人が学びを深めていくことで、その地域、そして子どもたちへとフィードバックしていくことこそが大事なことだと思っています。

PTA綱領にこうあります。『本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。』

このように、社会の発展に寄与することが目的とされていることから、学校教育に加えて家庭教育、地域ぐるみの繋がりと協働が必要なことではないでしょうか。

今治市PTA連合会は、今後も子どもたちのみならず私たち大人も一緒になって、幸せな未来を築いていけるような活動や運営をしていきますので、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



編集後記

本号では、防災の大切さを「他人事」ではなく「自分事」として感じていただきたいという思いを込めました。市PTA連合会の活動も、ぜひ今度は皆さま一人ひとりが当事者として関わっていただければ幸いです。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年6月15日(日) 今治市PTA球技大会

各学校の垣根を越えて、お互いを讀み合い、親睦を深めました。来年度もたくさんのご参加をお待ちしています！



ソフトバレーボール



ソフトボール



混合レクリエーションバレー



中央体育館



波方公園運動場



大西体育館 大西中学校体育館

令和7年11月8日(土) 情報交換会

～愛顔(えがお)の子育て トーク＆わーく応援プログラム集「トクわく」～

「トクわく」は、家庭教育や子育てについて気軽に話し合う場を提供することを目的に、愛媛県教育委員会が作成したプログラムです。ワークショップや座談会等に取り入れることで、子育ての不安や悩みを分かち合い、孤独感を和らげ、つながりづくりに役立てることができます。

今回、PTA連合会の活動の一環として、この「トクわく」を活用し、PTA会員のみなさまとともに、子育てに関する不安や悩みを共有することとしました。

【今回のテーマ】

- ①「励まし方やほめ方、どうしてる？」
- ②「我が家のルールづくり（特にネットやゲーム機との付き合い方）」

4～5人のグループをつくり、グループワークを行いました。

自己紹介を兼ねてサイコロを利用し、「自分がはまっているもの」や「こう見えて私○○なんです」などを話すことで、初対面でも和やかな雰囲気生まれ、その後のグループワークも活発な話し合いにつながりました。

【意見・気づき】

- ① ほめ方について
 - ・何をほめてほしいのか見極める
 - ・ほめるタイミングが大事
 - ・人と比べない
 - ・日ごろの過程をほめる
 - ・ほめた後、次の目標を設定する
- ② ルールづくりについて
 - ・家族会議で子ども自身にルールを決めてもらおうと納得感が生まれ、声かけだけで行動が変わる
 - ・決めたルールは親も一緒に守る

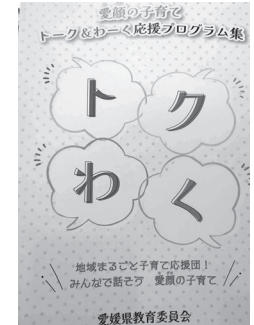
【参加者の声】

「子どもへの押し付けになっていないかと、自分を振り返ることができた」
「他の家庭のルールづくりやほめ方を聞けてよかった」
「PTA活動がこんなに楽しいとは思わなかった。もっと固いと思っていたが、想像と違った」

また、全国の現状として、約7割の方が子育てに不安や悩みを感じ、約3割の方が子どもを通じて関わる人がいないという状況があるとのこと。

県としては、「トクわく」を通じて保護者同士のつながりの場づくりを強化していく方針であり、小学校入学前の招集時に取り入れることで、保護者の不安軽減やつながりづくりにも役立ったとの情報提供もありました。

今後も今治市PTAの活動において、このプログラムを継続して活用していきたいと考えています。「トクわく」については愛媛県ホームページからご覧いただけます。この「トクわく」が、さまざまな場面で広く活用されることを願っています。



波方公民館中ホール

輝くひとみ

第37号

令和8年3月15日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabaricity-pta.jp>



市PTA連合会 HP



市PTA連合会 Facebook



トクわくについて

令和8年1月18日(日) 研修大会

令和8年1月18日(日)、波方公民館大ホールにて「令和7年度今治市PTA 連合会研修大会」が開催されました。

オープニングアクトでは「今治しまなみキッズチアリーディングチーム LOVENS」の皆さんによるパフォーマンスが披露されました。笑顔いっぱい元気いっぱいのステージに参加された皆さんも笑顔で拍手を送り、「P！T！A！」の掛け声で会場全体が一体となりました。ご来場の皆さんも一気に若返ったのではないのでしょうか！素晴らしいパフォーマンスをありがとうございました！

開会行事では、今治市PTA 連合会会長長尾正人、愛媛県PTA 連合会吉良光司会長の挨拶の後、今治市教育委員会副教育長越智政徳様よりご挨拶いただきました。

表彰行事では多数の方々の表彰のご紹介、各種表彰が行われました。個人表彰を受賞された皆さんには、「人と人との橋渡し」という思いのこもった桜井漆器の「お箸」が送られました。おめでとうございます。

表彰行事の後は、「叱らなくても子どもは伸びる ～ゲーム・スマホ・勉強・しつけ・思春期・反抗期など、目から鱗の子育てと家庭教育～」と題して、教育評論家の親野智可等先生にご講演いただきました。

親野先生のご講演は、長年の教職や教育評論家のご経験やご知見から、とても分かりやすく最初から最後まで目からうろこの連続でした。冒頭クイズでは、「あなたは犬派？猫派？」「朝型？夜型？」「整理整頓はできる？できない？」などの質問に回答した後、「なぜ？」について問われました。もし、それらが家庭環境やしつけによって変わるなら、兄弟姉妹は同じ資質を持つはずですが、それらは先天的な資質であって、叱ることで自己肯定感の低下や人間不信につながる危険性があることをよく理解できました。

先生は、「できないことは叱るのではなく、やりやすくする工夫が大事。それでできたらほめて少しずつ手を離してみることが重要」と話

されました。それでもできないときは、「美しき存在」である子どものありのままを受け入れ、一緒にやってあげ

ることを楽しめばよいとおっしゃいました。

また、先天的な資質は子どもほど影響が大きく、大人になってから必要に迫られて自己変革できる場合もあるということを念頭に、不必要に叱ることをなくしていくことが大切とも話されました。

最後に、ともすれば私たち大人は、昔からの迷信や思い込み、自分が受けたしつけや教育にとらわれがちで、だからこそ、今日のように脳科学や心理学などの研究をもとに子どもを正しく理解し、子育てをアップデートしていくことが重要であると締めくくられました。

「ほめる」ことの大切さと本当の意味について、ご講演いただいたことを、各家庭、単位PTA、学校で生かしてまいりたいと思います。

親野先生には静岡より遠路お越しくださり、貴重なご講演を拝聴する機会をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



愛媛県PTA連合会功労者感謝状		愛媛県PTA連合会長連名表彰		愛媛県教育委員会教育長		愛媛県PTA連合会長連名表彰		愛媛県PTA連合会長連名表彰		愛媛県PTA連合会長連名表彰	
西中学校PTA		大三島小学校PTA		岡野満智子様		正岡久美恵様		池原 麻衣様		立花中学校PTA	
鳥生小学校PTA		日吉中学校PTA		大宮小学校PTA様		鴨部小学校PTA様		個人PTA功労者表彰		個人PTA功労者表彰	
大島中学校PTA		大三島小学校PTA		宮窪小学校PTA様		鴨部小学校PTA様		個人PTA功労者表彰		個人PTA功労者表彰	
吉本 徳尚様		達川雄一郎様		後藤健太郎様		正岡久美恵様		池原 麻衣様		立花中学校PTA	
別宮小学校 4年 森 栞香さん		大三島小学校 1年 藤田 一歩輝さん		吉海小学校 3年 池内 葵さん		吹揚小学校 4年 西 哲平さん		常盤小学校 5年 長井千代香さん		伯方小学校 6年 山本朔太郎さん	
最優秀賞		優秀賞		令和8年度PTAカレンジャー 表紙絵コンクール最優秀賞・優秀賞		今治市PTA連合会長連名功労者表彰		今治市PTA連合会長連名功労者表彰		今治市PTA連合会長連名功労者表彰	
大三島小学校 1年 藤田 一歩輝さん		日高小学校 2年 河野 昂さん		吉海小学校 3年 池内 葵さん		吹揚小学校 4年 西 哲平さん		常盤小学校 5年 長井千代香さん		伯方小学校 6年 山本朔太郎さん	
大三島小学校 1年 藤田 一歩輝さん		日高小学校 2年 河野 昂さん		吉海小学校 3年 池内 葵さん		吹揚小学校 4年 西 哲平さん		常盤小学校 5年 長井千代香さん		伯方小学校 6年 山本朔太郎さん	

日高小「おやじの会」夏の恒例イベント「野外カレー＆花火」

日高小学校の「おやじの会」は、子どもたちの笑顔のために活動する有志のお父さんたちの会です。親子活動やリサイクル活動など、地域のさまざまな場面で「おやじの力」を発揮しています。毎年8月に開催される大人気の親子イベントが、「野外カレー＆花火」です。今年度は、これまで使っていたコンクリートブロックのかまどに代わり、大規模災害に備えて日高小に配備された既製品のかまど※を使用し、炊き出しの練習も兼ねて実施しました。

親子でにんじんを切ったり、火を起こしたりしながら、協力してカレーを調理。自分たちで作ったカレーの味は格別で、食後の花火も大盛り上がりでした。

参加者からは、「自分たちで作ったカレーはとても美味しかった」「初めてかまどで炊いて楽しかった」といった声が多く寄せられ、大好評のうちに終了しました。

今後も「おやじの会」は、子どもたちの笑顔を原動力に活動を続けていく予定です。



※このかまどは、日高地区自主防災会が、公益財団法人日本宝くじ協会の助成を受け、安全な地域づくり事業の一環として購入したものです。



今治市長沢地区 林野火災について

この度の林野火災において、被害に遭われました方々につきまして、お見舞い申し上げます。また多くの方々の助けにより無事鎮圧しました事に敬意を表します。

令和7年3月23日(日)に今治市長沢地区で発生した林野火災は、令和7年4月14日(月)に鎮火を発表し無事終結しました。強風の影響で延焼範囲が拡大し、焼損面積(約448ha)としては平成以降、愛媛県内最大規模となりました。消火活動中の人的被害は3名、住家・非住家被害は26件にのぼりました。消火活動人員として、地元消防延べ896名、地元消防団延べ3,300名、その他市外の応援隊や自衛隊1541名によって消火されました。

長沢地区をはじめ、朝倉、緑ヶ丘団地、旦、桜井地区の多くの方々が避難所に避難されました。避難所では簡易ベッドや非常食が準備されており、場所によっては仕切り付きスペースが作られ、炊き出しも行われました。しかし、ペットなどは専用ゲージがなければ避難できず、ペットフードの備蓄もないため車中避難される方もおられました。市としても今回の事を受けて改善していくようですが、やはり個人の防災準備は必要不可欠と感じました。

災害用に備蓄する水の量は、飲料水で1人1日3L、最低3日分が必要だと言われています。また、避難所ではトイレ問題が最もストレスとなるため、簡易トイレも用意しておきましょう。長期間の避難においては、トイレを我慢したりストレスの影響を受けやすい女性の方が関連死が多いという統計もあります。

常備薬や子ども用品、ペット用品など代用の効かないものは非常に困ることになります。改めて、防災用品の見直しをぜひご家族で行ってくださいね。

防災への小さな一歩

～今できる5つの備え～

1) ハザードマップを見てみよう！

自宅、学校、職場など、身近な地域の
・災害の種類
・危険な場所や地域
・避難場所や避難経路

を確認しましょう。
「今治市ハザードマップ」でネット検索してみてください。



3) 家族で防災について話し合おう！

・避難場所はどこ？
近所の学校や公園など、優先順位を決めて3つ程度決めておくとういす。
・連絡手段はどうする？
災害用伝言サービスの利用方法を決めておくとういす。
普段から家族で話しておくことで、いざというときに安心です。



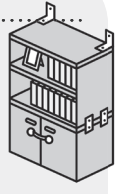
5) 防災グッズを準備しよう！

・飲料水、食料品
・モバイルバッテリー
・ラジオ
・衛生用品(ウェットティッシュ、生理用品など)
・季節用品(冬はホッカイロ、夏は塩分タブレットなど)
まずは100円ショップの物でも大丈夫なので揃えてみましょう。



2) 家具を固定しよう！

・窓…飛散防止フィルムを貼る
・家具…L字金具やつっぱり棒、粘着マット等で固定
・タンスや机など…滑り防止マットを敷く
・ベッド…本棚など倒れてきそうな家具から離す



★1つでもできたら立派な防災です。

4) 地域の防災活動に参加してみよう！

子どもと楽しみながら学べるイベントもあります。気軽に防災に触れ合う機会をつくりましょう。
2025年は、しまなみアースランドで防災フェスティバル、今治市民一斉同時参加の「いまばりシェイクアウト訓練」。上浦町で今治市総合防災訓練、吉海町で防災運動会などのイベントが開催されました。
他にも各地域で開催されています。ぜひ調べて参加してみてください。



「何にもしてない」から「1つやった」へ！
今がそのタイミングです。
1つでも大丈夫です。
すぐ取り組める対策から始めて、いつ来るかわからない災害に備えましょう。



インタビュー

小学生防災士の挑戦

～学びから広がる防災とやさしい地域づくり～

学校、地域、家庭が連携して防災について考える機会が求められる今、今治市では中学1年生の越智菜々子さん（当時小学校6年）が、防災士資格に挑戦されました。今回は、その取り組みについてインタビューを行いました。



Q 防災士の勉強をしてみようと思ったきっかけは何ですか？

学校で地域の防災訓練の参加のチラシが配られて友達と一緒に参加し、そこから子供防災士として活動して自治会の人から防災士受けてみませんか？と言われたのがきっかけでした。

Q その時、おうちの人や先生はどんな反応でしたか？

家族はいいやん！やってみる？というような反応でした。



Q 勉強はどのように進めましたか？

最初は本を読んでなんとなく理解して、試験が近づくと地域の防災士の人が毎週集会のようなものを開いてくれて、そこで過去問を解いたりわからないことを説明してもらったりしていました。

Q 小学生として大変だったこと、工夫したことは？

本格的な単語などが多く、理解やイメージするのが難しかったです。なので自分でその場面のストーリーをつくってイメージしやすくしました。

Q 特に「これは役に立つな」と思った学びは何でしたか？

いざというときの怪我の応急処置の方法や避難グッズに必要なものなどの学びです。

Q 今治市でもいろいろな防災の取り組みがありますが、参加したことはありますか？

あります！地域の防災訓練などには参加するようにしています。

Q 地域の中で「ここをもっと良くしたい」「子どもにもできる防災」はありますか？

災害が起こった時に自分の命を守るための行動を知っておくとか、いろんな人とかかわって地域について知っておくことも防災だと思います。

Q 合格したと知った時、どう思いましたか？

よかったーと安心する気持ちとこれから頑張るぞという希望を持つ気持ちがありました。

Q 防災士として、これからどんなことに取り組みたいですか？

災害が起きたときに活躍できるように、日頃からたくさん学ぶことに取り組みたいです。

Q 同年代の子たちや、大人の皆さんに伝えたいことはありますか？

地域の人みんなで優しい地域づくりがしたいです！

【インタビューを行って】

今治市では防災士の育成に力を入れており、昨年12月には大人を含めた大勢の方が受験され、中学生・高校生でもたくさんの方が資格を取得されました。近年は小学生の合格者も多く誕生しています。

防災士資格の取得にあたっては、事前に普通救命講習も履修するため、災害時だけでなく日常生活や地域活動など多岐にわたる場面での活躍につながります。



近い将来発生が懸念されている南海トラフ地震の際にも、正しい知識と行動を身につけておくことで、焦らず対応することができ、自分自身はもちろん誰かの命をつなぐ行動にもなります。

ぜひ、皆さまも防災士へのチャレンジを考えてみてはいかがでしょうか。

生きる力を育み、地域と歩む

～大三島中学校の防災教育の今～

文部科学省の「防災教育実践モデル事業」に指定されている大三島中学校では、「防災」を軸に地域とともに学びを積み重ねています。その牽引役を令和6年度から担ってこられた角尾校長先生にお話を伺いました。

校長先生が繰り返し語られたのは、「生かされている命をどう大切にするか」という言葉でした。



■ 島の現実に向き合う学び

大三島は津波リスクこそ比較的低いものの、2018年の西日本豪雨では多々羅温泉周辺で土砂災害が発生し、田畑にも大きな被害が生じました。「遠くの出来事ではない。」その現実を踏まえ、学校では自助・共助の力を育てる学びを積極的に展開しています。

その一つが、毎年行われる「防災学習会」です。今年5月には愛媛大学の二神先生を招き、PTA 参観日と併せて公開講座として実施されました。さらに、保育所との合同避難訓練や災害クロスゲームなど、多様な学びが行われています。



■ 「防災士」とつながることで広がった世界

防災士との連携が始まった背景には、校長先生の前任校である菊間中学校での実践があります。

そこで培われた経験が、「地域の力を子どもたちの学びに生かしたい」という思いとなり、大三島でも取組が広がりました。大三島の上浦地区と大三島地区あわせて20名以上の防災士が大三島中学校の防災教育に関わりました。

今治市総合防災訓練では、ヘリコプターを活用した避難訓練や、生徒と地域の方々との合同ワークなどを通して、地域の防災力が高まり、防災学習の厚みが確実に増しています。

■ 生徒が「自分の命」を見つめ直す

東日本大震災の被災地を視察した経験から、校長先生は生徒たちにこう語られます。

「そこには、生きたくても生きることができなかった子たちがいました。私たちは「生かされている命」であることに気づいてほしいのです」

防災・人権・平和教育を貫く軸として「生きるとは何か」という問いを大切に、「生きるということ」の詩を書くことで生徒たちは一年を通して自分自身と「生きるということ」に向き合います。

特に印象的なのは、全学年が取り組む「防災小説」です。将来、自分自身が災害に遭う場面を想定し、「どう命をつなぐか」を物語として描きます。優秀作品は文化祭で劇として発表され、単なる学習を超えて、災害を「自分事」と捉える学びへと発展しています。

■ 学校・家庭・地域がつながることで強くなる

防災教育を進めるうえで欠かせないのが、家庭と地域の協力です。大三島中学校では「保護者が能動的に参加できる防災訓練」を目指しています。生徒たちが行う AED 実習や簡易担架づくりを“見るだけ”ではなく、保護者も実際に参加できる形にしました。新たな試みとして職員室の電話を使い、生徒が保護者の携帯電話へ「171 伝言ダイヤル」を録音する体験も行いました。

こうした活動を通して、家庭の防災に対する意識の向上や防災力の向上にもつなげています。

■ 継承される学びへ

来年度以降の展望について、校長先生は次のように語られました。

「先生が変わっても地域は変わらない。だからこそ、地域の教育資源を生かす取り組みを続けたい」

防災士、人権教育の専門家、社会福祉協議会、各支所の方々など、大三島には、学校に力を貸してくださる多くの大人がいます。そのつながりを「学校の財産」として引き継ぎ、令和8年度にはさらに防災教育の充実に努めます。

■ おわりに

大三島中学校の防災教育は、単なる防災訓練にとどまりません。「生きるとは何か」を問い続けながら、地域とともに、生徒一人ひとりの安心で安全な未来を支える学びでした。

防災を通じて育まれた生徒の「いのちを守る力」が、これからの大三島の未来をきっと明るく強くしてくれることでしょう。

